

令和5年度 府中市立府中第三小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を要約したり、要旨を把握したりする力が弱い。 読んで理解したことをもとに感想や考えをもつことや、それらを豊かな表現を用いて書き表すことが難しい児童が多い。 目的や意図に応じて伝えたいことを明確にし、筋道立てて話す力が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> 指示語や接続語に目を付けて考えさせ、段落相互の関係を捉えられるようにする。また、段落の中心となる文にサイドラインを引いたり、キーワードに印を付けたりさせ、要約する時間を設ける。 朝読書や図書時間の読書活動、日常的な辞書の活用を通して、語彙を増やし、活用する力を高める。 教科書の文章を手本に、目的に応じた表現のよさについて考えたり、その表現を用いて文章を書いたりする場を設ける。 話型や根拠を明らかにした話し方のモデルを示す。また、メモの効果的な活用の仕方についても指導し、筋道を立てて話す力を高める。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算の仕方は理解しているが、ケアレスミスが多く、正確さに欠ける。 既習内容の知識や技能の定着に個人差があり、つながりを考えながら問題を解くことが難しい児童がいる。 問題の解き方を相手に分かりやすく説明したり、自分の考えを論理的に話したりする力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 答えの見当を付けてから計算するよさに気付かせ、確かめをすることで計算ミスを防ぐ。 習熟度に合わせて、自力解決ができるよう見通しをもたせたり、適宜既習事項を振り返ったりする。 友達と学び合うよさを感じさせるとともに、相手を意識したり、図や表などを用いて説明したりできるように指導する。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題作りで問題意識はあるが予想に関しては根拠をもって発言できる児童が少ない。 観察実験をする際に見通しをもって方法を考えられず整理して、観察や実験が進められない。 実験や観察した結果をもとに考察することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ経験をもたせたり想起させたりすることで、問題に対する予想を根拠をもって考えさせる。 結果の見通しをもたせ、仮説に対する結果の整理の仕方考えさせるためにある程度方法は教える。 「予想と比べてどうだったか」などある程度考察の視点をもたせて、書けるようにする。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 国名、都道府県名といった地理的知識の定着が十分でない。 グラフや表、文章などの複合的な資料から、事実を読み取ったり、そこから思考したりする力が不足している。 資料から読み取った事実や、考えたことと、社会的な事象を結びつかせての理解が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理的知識の定着のために、地球儀、地図帳、ICTなどの資料を活用し、興味関心を高めることで知識の定着につなげる。 グラフ、表、文章などの資料の読み取り方の指導を継続し、読み取れる事実と、そこから考えられることを区別してまとめられる力の定着を図る。 教材や発問を吟味し、実体験や実生活との関連をより意識させたり、社会科見学を効果的に活用したりすることで、社会的な事象をより身近に感じながら理解を深められるようにしていく。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○表現の技能 歌唱では、曲想にあった表現を工夫することができない。 器楽のリコーダーでは運指は定着しているがタンギングが不十分な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現の工夫を考える場を設定し、どう表現したいか考えたり試したりする場面を増やす。 タンギングと運指が連動するように、練習方法を工夫する。また、楽曲ごとに個別指導の時間を増やす。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ○創造的な技能 積極的に取り組んでいるが、経験や技能などを総合的に生かしたり、方法を組み合わせるなど活動を工夫してつくり出す力がやや弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 各題材において材料・用具の活用方法を探求するとともに、既習の材料・用具との組み合わせに挑戦する時間を多く設けて、表現の幅を広げられるようにする。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○生活の技能 児童の生活体験の差があり調理領域、被服領域の技能習得で個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の体験学習を増やす。家庭での実践の宿題を出し、生活技能の習得につなげる。 家庭での実践を学校で発表会をして興味の幅を広げさせる。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動技能の個人差が大きい。 自分たちの実態に合わせて活動やルールを工夫することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 達成感が得られるように様々な場の工夫をしたり、友達と協力したりできるようにする。また、様々な運動の特性に合わせた楽しさを味わわせる。 活動ごとに振り返りをし、よかったことや困ったことを話し合い、ルールの改善や工夫につなげていく。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 楽しんで活動に取り組める児童が多いが、英語を話すことに抵抗を示す児童も少なからずいる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動を取り入れることで、友達と一緒に楽しんで英語を話すことができるようにする。 耳で聞いたものを目で見ることで英語の理解を深めるような教材を工夫したり、ICTを活用したりする。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。